



GRAND HOTEL KANACHU

宿泊約款 (202004 月改正)

【適用範囲】

第1条 当ホテルが宿泊客との間で締結する宿泊契約およびこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令または一般に確立された慣習によるものとします。

2. 当ホテルが、法令および慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。

【宿泊契約の申込み】

第2条 当ホテルに宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当ホテルに申し出ていただきます。

(1) 宿泊者名

(2) 宿泊日および到着予定時刻

(3) 宿泊料金（原則として別表第1の基本宿泊料による）

(4) その他当ホテルが必要と認める事項

2. 宿泊客が、宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当ホテルは、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理します。

【宿泊契約の成立等】

第3条 宿泊契約は、当ホテルが前条の申込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当ホテルが承諾しなかったことを証明したときは、この限りではありません。

2. 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間（3日を超えるときは3日間）の基本宿泊料を限度として当ホテルが定める申込金を、当ホテルが指定する日までに、お支払いいただきます。

3. 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条および第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば返還します。

4. 第2項の申込金を同項の規定により当ホテルが指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとします。ただし、申込金の支払い期日を指定するに当たり、当ホテルがその旨を宿泊客に告知した場合に限ります。

【申込金の支払いを要しないこととする特約】

第4条 前条第2項の規定にかかわらず、当ホテルは、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。

2. 宿泊契約の申込みを承諾するに当たり、当ホテルが前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合および当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

【宿泊契約締結の拒否】

第5条 当ホテルは、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。

(1) 宿泊の申込みが、この約款によらないとき。

(2) 満室により客室の余裕がないとき。

(3) 宿泊しようとする者が、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき。

(4) 宿泊しようとする者が、伝染病者であると明らかに認められるとき。

(5) 宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められたとき。

(6) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき。

(7) 宿泊しようとする者が、以下の各号の一に該当するとき。

1) 暴力団、暴力団関係企業・団体、過激行動団体、その他反社会的勢力（以下「暴力団等」といいます）又は暴力団等の関係者である場合

2) 暴力団等又は暴力団等の関係者が事業活動を支配する法人その他の団体である場合

3) 法人でその役員のうち暴力団等の関係者がある場合

4) 当ホテルのお客さまに著しい迷惑を及ぼす言動をした場合

5) 当ホテル又は当ホテル従業員に対し、暴力的要求を行い又は合理的範囲を超える負担を要求した場合

【宿泊客の契約解除権】

第6条 宿泊客は、当ホテルに申し出て、宿泊契約を解除することができます。

2. 当ホテルは、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部または一部を解除した場合（第3条第2項の規定により当ホテルが申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます）は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当ホテルが第4条第1項の特約に応じた場合にあっては、その特約に応じるに当たって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払い義務について、当ホテルが宿泊客に告知したときに限ります。

3. 当ホテルは、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後8時（あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻）になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

宿泊約款 (202004 月改正)

【当ホテルの契約解除権】

第7条 当ホテルは、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。

- (1) 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、または同行をしたと認められるとき。
 - (2) 宿泊客が伝染病者であると明らかに認められるとき。
 - (3) 宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
 - (4) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき。
 - (5) 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたずら、その他当ホテルが定める利用規則の禁止事項に従わないとき。
 - (6) 宿泊客が、以下の各号の一に該当するとき。
 - 1) 暴力団、暴力団関係企業・団体、過激行動団体、その他反社会的勢力（以下「暴力団等」といいます）又は暴力団等の関係者である場合
 - 2) 暴力団等又は暴力団等の関係者が事業活動を支配する法人その他の団体である場合
 - 3) 法人でその役員のうち暴力団等の関係者がある場合
 - 4) 当ホテルのお客さまに著しい迷惑を及ぼす言動をした場合
 - 5) 当ホテル又は当ホテル従業員に対し、暴力的要求を行い又は合理的範囲を超える負担を要求した場合
2. 当ホテルが前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

【宿泊の登録】

第8条 宿泊客は、宿泊日当日、当ホテルのフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。

- (1) 宿泊客の氏名、年齢、性別、住所および職業
 - (2) 外国人にあつては、国籍、旅券番号、入国地および入国年月日、パスポートコピー
 - (3) 出発日および出発予定時刻
 - (4) その他当ホテルが必要と認める事項
2. 宿泊客が第12条の料金の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

【客室の使用時間】

第9条 宿泊客が当ホテルの客室を使用できる時間は、午後2時から翌日午前11時までとします。ただし連続して宿泊する場合には、到着日および出発日を除き、終日使用することができます。

2. 当ホテルは、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には、次に掲げる追加料金を申し受けます。
- (1) 午後1時までは、室料の30%
 - (2) 午後3時までは、室料の50%
 - (3) 午後6時までは、室料の80%
 - (4) 午後6時以降は、室料の100%

【利用規則の遵守】

第10条 宿泊客は、当ホテル内においては、当ホテルが定めてホテル内に掲示した利用規則に従っていただきます。

【営業時間】

第11条 当ホテルの主な施設等の営業時間は次のとおりとし、その他の施設等の詳しい営業時間は備え付けパンフレット、ホームページ、各所の掲示、客室内のサービスディレクトリー等でご案内いたします。

- (1) 門限……………なし
 - (2) フロントサービス……………24時間
2. 前項の時間は、必要やむを得ない場合には、臨時に変更することがあります。その場合には、適当な方法をもってお知らせします。

【料金の支払い】

第12条 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳およびその算定方法は、別表第1に掲げるところによります。

2. 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨または当ホテルが認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等これに代わり得る方法により、宿泊客の到着の際または当ホテルが請求したときフロントにおいて行っていただきます。
3. 当ホテルが宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けます。

【当ホテルの責任】

第13条 当ホテルは、宿泊契約およびこれに関連する契約の履行に当たり、またはそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。ただし、それが当ホテルの責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。

【契約した客室の提供ができないときの取り扱い】

宿泊約款 (202004 月改正)

第 14 条 当ホテルは、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設をあっ旋するものとします。

2. 当ホテルは、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設のあっ旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当ホテルの責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

【寄託物等の取扱い】

第 15 条 宿泊客がフロントにお預けになった物品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが不可抗力である場合を除き、当ホテルは、その損害を賠償します。ただし、お預けになった物品が現金または貴重品である場合、宿泊客がその種類および価額の明告を行わなかったときは、当ホテルはその損害を賠償いたしません。また、宿泊客からあらかじめ種類および価額の明告があった場合においては、当ホテルに故意または重大な過失がある場合を除き 5 万円を限度として当ホテルはその損害を賠償します。

2. 宿泊客が、当ホテル内にお持込みになった物品であってフロントにお預けにならなかったものについては、当ホテルの故意または過失により滅失、毀損等の損害が生じた場合は、その損害を賠償します。但し、宿泊客からあらかじめ種類および価額の明告のなかったものについては、5 万円を限度としてその損害を賠償します。

【宿泊客の手荷物または携帯品の保管】

第 16 条 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って到着した場合は、その到着前に当ホテルが了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際お渡しします。

2. 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物または携帯品が当ホテルに置き忘れられていた場合、当ホテルは、原則として発見日を含め 7 日間保管し、その間にお客様から返還の申し出がなされなかった場合には、これを最寄りの警察署に届けるものとします。ただし、貴重品については、直ちに最寄りの警察署へ届けるものとします。また、飲食物及び雑誌ならびにその他の廃棄物に類するものについては、チェックアウトの翌日までにご連絡がない場合には、当ホテルにて任意に処分させていただきます。

3. 第 1 項および第 2 項の場合における宿泊客の手荷物または携帯品の保管についての当ホテルの責任は、第 1 項の場合にあっては第 15 条第 1 項の規定に、第 2 項の場合にあっては第 15 条第 2 項の規定に準じるものとします。

【駐車責任】

第 17 条 宿泊客が当ホテルの駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当ホテルは場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理に当たり、当ホテルの故意または過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

【宿泊客の責任】

第 18 条 宿泊客の故意または過失により当ホテルが損害を被ったときは、当該宿泊客は当ホテルに対し、その損害を賠償していただきます。

【宿泊約款の変更】

第 19 条 当ホテルは以下の場合に、当ホテルの裁量により、この宿泊約款を変更する事が出来ます。

(1) 宿泊約款の変更が、お客様の利益に適合するとき。

(2) 宿泊約款の変更が、契約をした目的に反せず、かつ、変更の必要性、変更後の内容の相当性、変更の内容その他の変更に係る事情に照らして合理的なものであるとき。

2. 当ホテルは前項による利用規約変更に当たり、変更後の利用規約の効力発生の 1 ヶ月前までに利用規約を変更する旨、および変更後の宿泊約款の内容とその効力発生日を当ホテルホームページに掲載します。

3. 変更後の宿泊約款の効力発生日以降にお客様が当ホテルに宿泊したときは、宿泊約款の変更に同意したものとみなします。

【別表第 1】 宿泊料金の内訳 (第 2 条第 1 項及び 12 条第 1 項関係)

		内 訳
宿泊客が 支払うべき総額	宿泊料金	・ 基本宿泊料 室料 (又は室料 + 朝食料)
	追加料金	・ 飲食料、又は追加飲食 (朝食以外の飲食料) 及びその他の利用料金
	税金	・ 消費税

宿泊約款 (202004 月改正)

備考

1. 基本宿泊料金はフロント、客室及びパンフレットに掲示する料金表になります。
2. 当ホテルでは子供も大人料金と同一になります。
3. 税法が改正された場合は、その改正された規定によるものとします。

【別表第 2】 違約金 (第 6 条第 2 項関係)

		不 泊	当 日	前 日	9 日前	20 日前
一 般	14 名まで	100%	80%	20%		
団 体	15 名～99 名まで	100%	80%	20%	10%	
	100 名以上	100%	100%	80%	20%	10%

1. %は、基本宿泊料金に対する違約金の比率です。
2. 契約日数が短縮した場合は、その短縮日数にかかわらず、1 日分（初日）の違約金を収受します。
3. 団体客(15 名以上)の一部について契約の解除があった場合、宿泊の 10 日前(その日より後に申込みをお引き受けした場合にはそのお引き受けした日)における宿泊人数の 10% (端数が出た場合には切り上げる)にあたる人数については、違約金はいただきません。